

# 諏訪の景気動向

平成18年 5月

(平成18年4月末D・調査)

平成18年5月15日

諏訪信用金庫

経営相談室

## 諏訪地方の景気動向（平成18年4月末）

平成18年4月末アンケート調査および企業訪問ヒアリング調査からまとめた諏訪地方の景況

当金庫が、諏訪地方201社のご協力を得て行った4月末の「景気動向調査」からみた地域の景況は、「3ヶ月前」と比べ業況判断DIが全体で3.5ポイントと2期ぶりにプラスとなり、景況に回復感がみられる。製造業の業況判断DIは9.4ポイント（好転企業22.7%）で好転しているが、非製造業は13.7ポイントでマイナス幅は縮小したものの業況は厳しい状況が続いている。

**製造業**の業況は、「好転」22.7%・「悪化」13.3%で業況判断DIは9.4ポイントと前回調査時の5.2ポイントから大幅に回復した。

「3ヶ月前」と比べての受注状況DIは、16.1ポイントとなっている。規模別にみると従業員数100人以上の企業の受注状況DIは28.1ポイント、30人から99人は35.4ポイントとなっているが、29人以下の企業は2.9ポイントとなっている。業種別では、一般機械・輸送用機械に受注が増加した企業が多くみられ、幅広い業種で受注が増加した。「3ヶ月後」の予想では、輸送用機械・電気機械に受注増加を予想する企業が多くみられる。全体の受注予想DIは14.4ポイントで、受注が回復するとみる企業が多くなっている。

ヒアリング調査からは、産業機械や自動車関連企業は引き続き堅調な生産状況が続き、デジタル家電・IT機器などは世界市場での競争激化から、電子デバイスなど受注量は増加しているものの単価は低下している。

**商業**は、春物衣料は天候の影響（短い周期で天候が変わり昼夜の寒暖の差が大きく、平均気温が例年より低かったこと）から3月中旬以降は売上が低下した。食料品は、店舗間競争が激しく客単価が低下した。季節を迎えた園芸資材は堅調な売れ行きをみせたほか、薄型TVやデジタル家電は順調な売れ行きをみせ「3ヶ月前」と比べての商業全体の業況判断DIは、0.0ポイントとなっている。「前年同期比」の業況判断DIは12.5ポイントで、リニューアル店舗との競合や天候不順の影響が窺える。

**観光・サービス業**は、3月・4月は寒暖の差が大きく一部天候の影響を受けた。

「3ヶ月前」と比べての業況は施設により区々で、全体では業況判断DIは5.6ポイントとなっている。大型連休前半は入込み客も多く地域の行楽地は賑わいをみせ、大型連休の宿泊状況は順調であったところが多い。諏訪湖開きや地域各地の開山祭が行われるなど、本格的観光シーズンに寄せる期待は大きく「3ヶ月後」の予想DIは44.4ポイントとなっている。

**建設業**は、年度切替え時期のため公共工事の発注は少ない。建築工事は、新設住宅や工場増設など民間工事が幾分増えているが、土木工事は少なく建設業総体では厳しい状況が続いている。

**収益性**は、製造業で原油や原材料の値上がり、受注単価の引き下げなど厳しい環境が続いているが、受注増加や合理化効果などから、平成16年1月から8期ぶりにプラスとなった。非製造業は、第3次産業に収益改善の動きがみられたものの、建設業は厳しい状況が続き、非製造業全体では収益改善は弱含みとなっている。

3月の諏訪地方の有効求人倍率は1.48倍で、平成15年10月から30ヶ月連続して1倍を上回り雇用環境は安定している。

新規求人は、諏訪・岡谷職安合わせて1,975人で、前年同月比23.7%の増加である。また、新規求職者数は967人で前年同期比 3.0%となっている。

## 業況判断D Iの推移（3ヶ月前と比較して）

今回調査の回答全社（201社）の「3ヶ月前」と比した業況判断D Iは、好転したとする企業が20.4%で、業況判断D Iは3.5ポイントと2期ぶりにプラスとなり、景況は前回調査時より幾分回復した。

製造業の業況判断D Iは9.4ポイントで、好転企業が22.7%となっている。全体の受注状況D Iは16.1ポイントで、幅広い業種で受注は増加している。主要5業種（電気機械、一般機械、輸送用機械、精密機械、金属製品）は受注が増加した企業が33.3%と多くなっており、受注状況D Iは15.0ポイントとなった。

非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）の業況判断D Iは、13.7ポイントとなっている。観光・サービス業は、「横這い」とする企業が61.1%となっており業況好転企業もみられるが、業況判断D Iは5.6ポイントとなっている。商業は、季節を迎えた園芸資材など順調な売れ行きの店舗がみられたが、衣料品は低温の影響を受け、食料品なども店舗間競争が激しく総体の業況判断D Iは0.0ポイントとなった。建設業は、公共事業の発注案件が少ないなど受注環境は好転せず厳しい状況が続いている。

産業別の自社業況

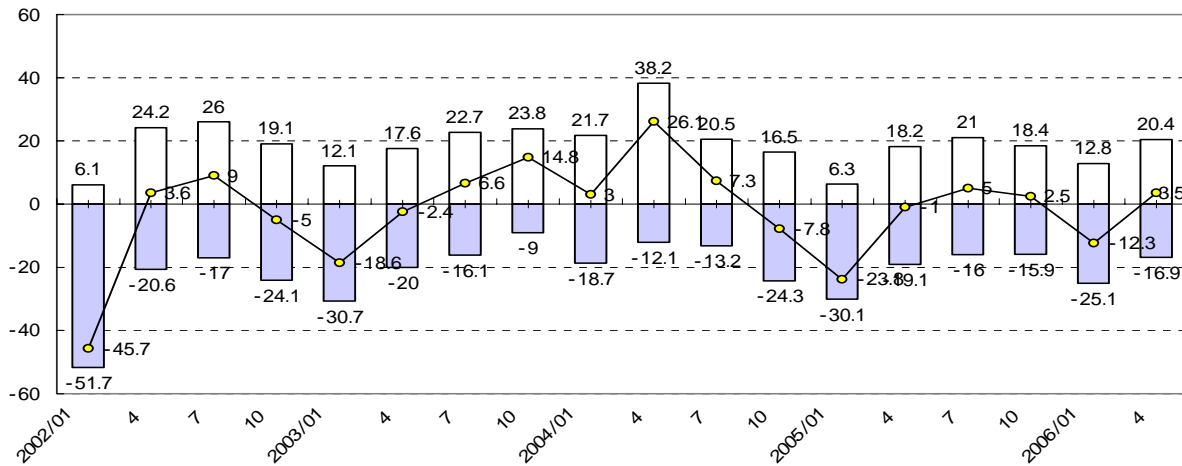
（企業数・%） 表 - 1

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回 答 企業数	好 転	横 這	悪 化	D I	回 答 企業数	好 転	横 這	悪 化	D I	回 答 企業数	好 転	横 這	悪 化	D I
全 体	201	20.4	62.7	16.9	3.5	199	33.7	41.7	24.6	9.0	198	23.2	67.7	9.1	14.1
製 造 業	150	22.7	64.0	13.3	9.4	148	37.8	40.5	21.6	16.2	147	21.1	72.8	6.1	15.0
非 製 造 業	51	13.7	58.8	27.5	-13.7	51	21.6	45.1	33.3	-11.8	51	29.4	52.9	17.6	11.8
商 業（大 型 店）	16	18.8	62.5	18.8	0.0	16	25.0	37.5	37.5	-12.5	16	18.8	62.5	18.8	0.0
建 設 業	17	5.9	52.9	41.2	-35.3	17	23.5	35.3	41.2	-17.6	17	17.6	52.9	29.4	-11.8
観 光・サー ビス	18	16.7	61.1	22.2	-5.6	18	16.7	61.1	22.2	-5.6	18	50	44.4	5.6	44.4

自社業況判断D Iの推移(「3ヶ月前」と比べて)

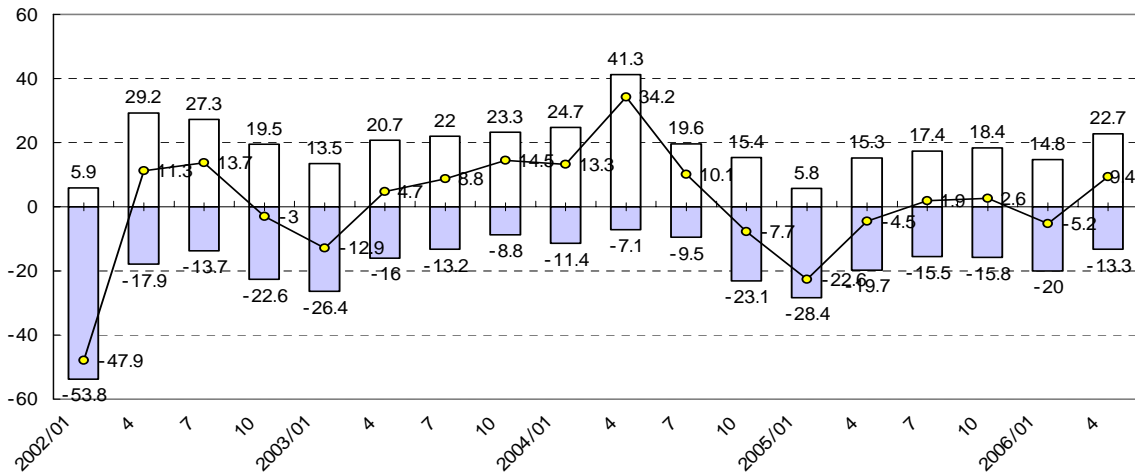
回答全社

グラフ - 1



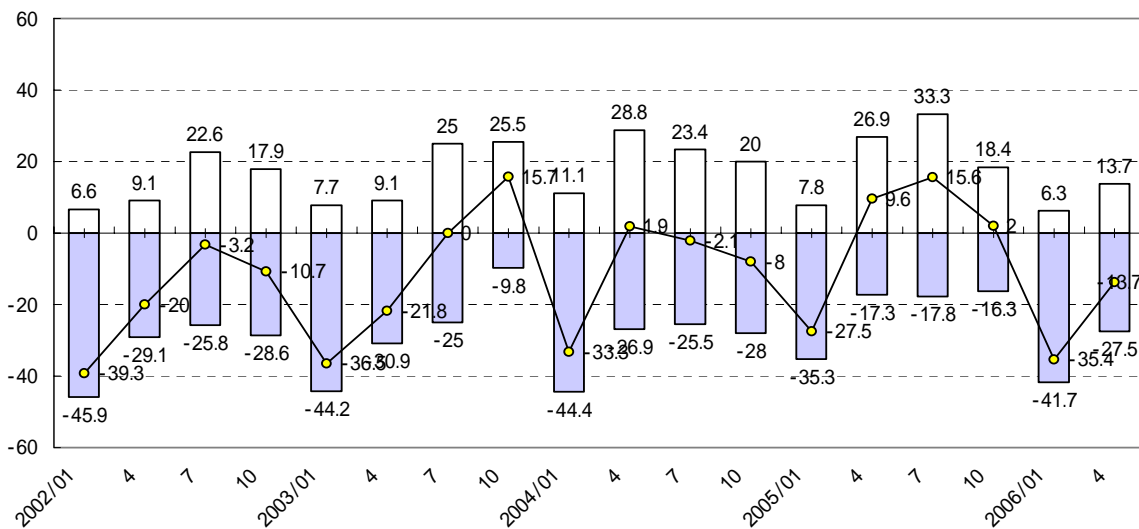
製造業

グラフ - 2



非製造業(商業、観光・サービス業、建設業)

グラフ - 3



## 産業別景気動向

### 1. 製造業

製造業の業況判断DIは9.4ポイントで、2期ぶりにプラスとなった。好転企業は22.7%で平成16年4月以降、好転企業率が最も高くなっており収益性に改善がみられる。業種別では一般機械・精密機械に業況が好転した企業が増え、電気機械などに業況悪化企業がみられる。

規模別では30人～99人及び100人以上の企業に業況好転企業が多く、29人以下の企業は受注が減少しており、業況判断DIは0.0ポイントになっている。

「3ヶ月後」の予想では、21.1%の企業が好転すると予想しており、予想業況DIは15.0ポイントとなっている。

デジタル家電・IT機器は、世界市場での大手メーカーの激しい競争が続き電子デバイスなど受注は堅調ながら受注単価は低下傾向が続いている。

地域企業は、総体では64.0%の企業が業況は「横這」としているが、「好転」企業は22.7%で前回調査時より7.9%増えている。

製造業 業種別・規模別の自社業況表

表 - 2

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回 答 企業数	好転	横這	悪化	DI	
製造業	150	22.7	64.0	13.3	9.4	148	37.8	40.5	21.6	16.2	147	21.1	72.8	6.1	15.0	
規模	1～29人	70	18.6	62.9	18.6	0.0	69	26.1	44.9	29.0	-2.9	67	25.4	62.7	11.9	13.4
	30～99人	47	27.7	66.0	6.4	21.3	47	44.7	40.4	14.9	29.8	47	21.3	76.6	2.1	19.1
	100～人	33	24.2	63.6	12.1	12.1	32	53.1	31.3	15.6	37.5	33	12.1	87.9	0.0	12.1
中分類	金属製品 製造業	22	18.2	68.2	13.6	4.5	21	23.8	47.6	28.6	-4.8	22	13.6	86.4	0.0	13.6
	一般機械 器具製造業	38	34.2	55.3	10.5	23.7	37	43.2	45.9	10.8	32.4	37	27.0	59.5	13.5	13.5
	電気機械 器具製造業	29	17.2	58.6	24.1	-6.9	29	44.8	17.2	37.9	6.9	29	20.7	72.4	6.9	13.8
	輸送用機械 器具製造業	17	29.4	52.9	17.6	11.8	17	41.2	47.1	11.8	29.4	17	35.3	64.7	0.0	35.3
	精密機械 器具製造業	16	31.3	56.3	12.5	18.8	17	35.3	47.1	17.6	17.6	15	0.0	100.0	0.0	0.0

### 諏訪地方製造品出荷額の70%を占める中分類5業種の業況

#### 金属製品（プレス、メッキ、熱処理など）

「3ヶ月前」と比べての業況判断DIは4.5ポイントとなっている。好転企業が18.2%で、悪化した企業が13.6%みられるものの、全体として業況は幾分回復している。

「3ヶ月後」の予想業況DIは13.6ポイントで、「横這い」とみる企業が86.4%、「好転」とみる企業が13.6%で業況は更に回復するとみている。

#### 一般機械（工作機械、専用機械、省力機械、検査機械、半導体関連製造設備など）

「3ヶ月前」と比べて業況判断DIは23.7ポイントで、「好転」企業が34.2%となった。工作機械・専用機械は、自動車関連や半導体・携帯電話関連企業からの受注が順調で高水準の生産が続いている。「3ヶ月後」の予想業況DIは、13.5ポイントとなり引き続き順調な業況が予測される。

### 電気機械（家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど）

「3ヶ月前」と比べ業況が「好転」した企業が17.2%みられるが、「悪化」した企業が24.1%で業況判断DIは6.9ポイントと企業により業況は区々となっている。「3ヶ月後」の予想業況DIは13.8ポイントで、好転を予想する企業が多くみられる。

### 輸送用機械（自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など）

「3ヶ月前」と比べての業況判断DIは11.8ポイントで、「好転」29.4%・「横這」52.9%となっている。自動車の国内生産台数が1,000万台を維持しており、受注単価の引き下げは厳しいものの受注は安定している。

### 精密機械（時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など）

「3ヶ月前」と比べての業況判断DIは18.8ポイントとなっている。「好転」とする企業が31.3%となっており、交換レンズ関連の受注が増えている。

## 他の製造業

食料品、繊維工業、プラスチック工業、非鉄金属などは、業種や取引先により業況判断は区々となっている。

## 規模別業況

製造業の規模別業況判断DIは、1人～29人企業0.0ポイント・30人～99人企業21.3ポイント・100人以上企業12.1ポイントで、企業規模により幾分差がみられる。「3ヶ月後」の業況の予想では、規模の小さな企業に好転を予想する企業が多くみられる。

ヒアリング調査からは、大手企業の中に電子デバイスなど生産数量は増加しているが、販売単価は厳しいことからコスト削減にむけ取り組むところがみられた。

## 業種別・規模別受注状況

製造業全社の受注状況は、「3ヶ月前」と比べ増加企業33.6%・減少企業17.4%で、受注状況DIは16.1ポイントと前回調査時の8.4ポイントからは大幅に回復した。

規模別の受注状況はいずれの規模も「不変」が多いものの、受注増加企業も多く受注状況DIは100人以上企業が28.1ポイント、30人～99人企業35.4ポイントとなっている。一方、29人以下企業は2.9ポイントとなっており、29.0%の企業が受注が減少しており、企業規模により受注状況に差が見られる。総体の「3ヶ月後」の予想受注DIは14.4ポイントで、受注の回復を予想している。

主要5業種の「3ヶ月前」と比べた受注状況DIは、一般機械29.7ポイント・輸送用機械23.5ポイント・金属製品9.1ポイントなどで、5業種全体では受注状況DIは15.0ポイントとなっている。

主要5業種の「3ヶ月後」の予想受注状況DIは、輸送用機械を始め5業種とも受注が増加と予想しており13.6ポイントとなっている。

ヒアリング調査では、大手メーカーの部品・デバイスの調達グローバル化しており、国内外の同業他社とのコスト競争が激しく、コスト対応が急務となっていることが窺えた。産業機械関連の受注は、自動車や半導体・携帯電話関連など幅広い分野の受注から当面高水準の生産が続くと予測された。

業種別・規模別受注状況表

表 - 3

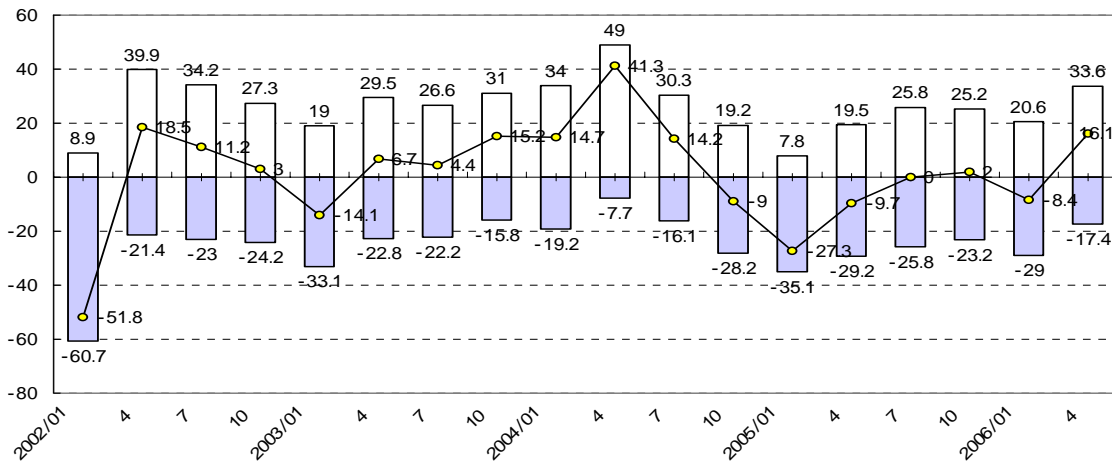
	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回 答 企業数	増加	不変	減少	D I	回 答 企業数	増加	不変	減少	D I	回 答 企業数	増加	不変	減少	D I	
製 造 業	149	33.6	49.0	17.4	16.1	146	46.6	31.5	21.9	24.7	146	22.6	69.2	8.2	14.4	
規 模	1~29人	69	26.1	44.9	29.0	-2.9	66	30.3	36.4	33.3	-3.0	67	23.9	61.2	14.9	9.0
	30~99人	48	41.7	52.1	6.3	35.4	48	56.3	33.3	10.4	45.8	47	23.4	74.5	2.1	21.3
	100人~	32	37.5	53.1	9.4	28.1	32	65.6	18.8	15.6	50.0	32	18.8	78.1	3.1	15.6
中 分 類	金属製品 製造業	22	27.3	54.5	18.2	9.1	22	40.9	31.8	27.3	13.6	22	13.6	81.8	4.5	9.1
	一般機械 器具製造業	37	43.2	43.2	13.5	29.7	36	61.1	30.6	8.3	52.8	35	22.9	65.7	11.4	11.4
	電気機械 器具製造業	28	25.0	50.0	25.0	0.0	27	44.4	25.9	29.6	14.8	28	28.6	60.7	10.7	17.9
	輸送用機械 器具製造業	17	41.2	41.2	17.6	23.5	17	47.1	29.4	23.5	23.5	17	35.3	52.9	11.8	23.5
	精密機械 器具製造業	16	25.0	56.3	18.8	6.3	17	35.3	35.3	29.4	5.9	16	6.3	93.8	0.0	6.3

製造業全社の受注状況 D I の推移

全社

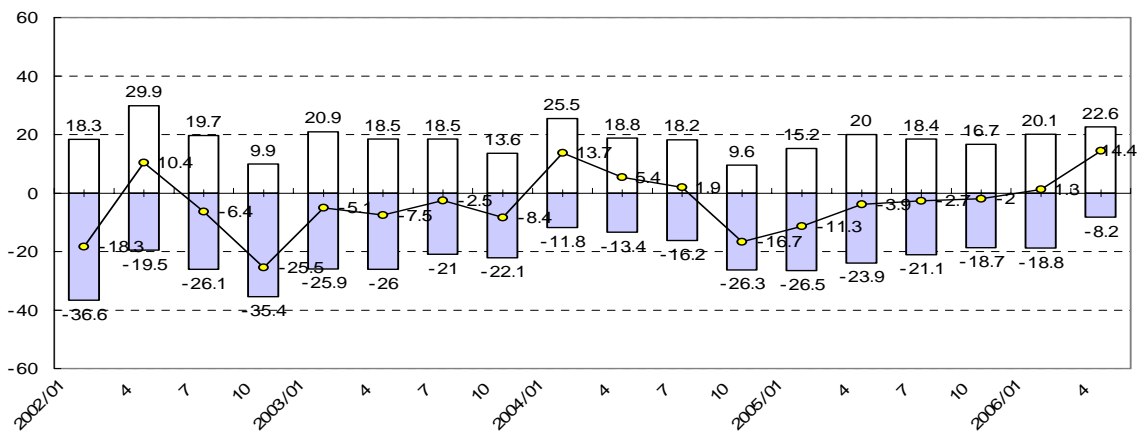
「3ヶ月前」と比べて

グラフ - 4



「3ヶ月後」の予想

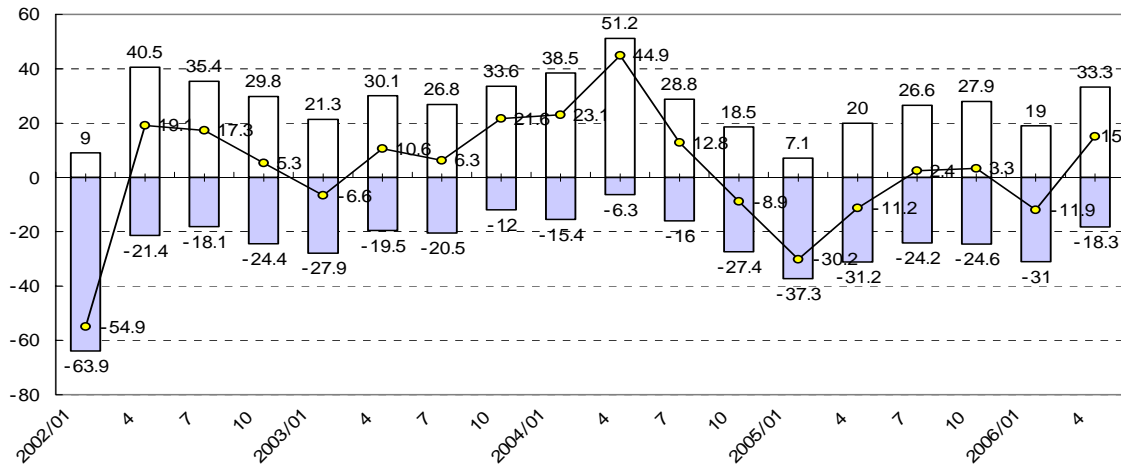
グラフ - 5



## 5 業種の受注状況 D I の推移

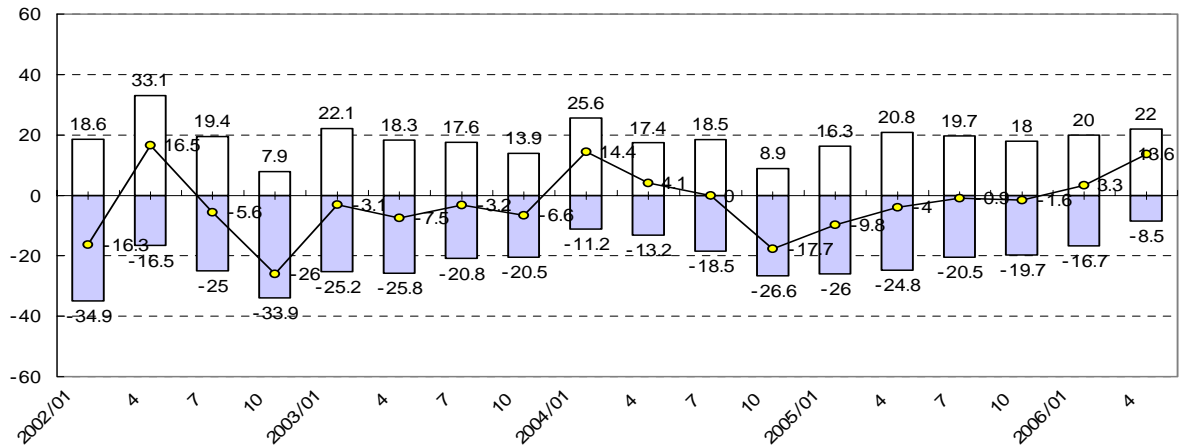
「3ヶ月前」と比べて

グラフ - 6



「3ヶ月後」の受注予想 D I の推移

グラフ - 7



## 2. 商業・観光サービス業

### 商業

短い周期で天候が変わり、昼夜の寒暖の差が大きく平均気温が例年より低かったことから、3月中旬以降は春物衣料など売れ行きが止まるなど、天候の影響を受けた商品がみられた。季節を迎えた園芸資材などは、前年を上回る売れ行きの店舗もあり、商業全体の「3ヶ月前」と比べての業況DIは0.0ポイントとなっている。

**食料品** 新規開店店舗を含め価格競争が激しくなっている。生鮮3品では野菜や食肉など一時的低迷から回復したものの、鮮魚は刺身を除き売れ行きはやや低調となっている。

**衣料品** 昼夜の寒暖の差が大きく平均気温が低かったことから、春物衣料は幾分低調だった。5月第2週の「母の日」セールに期待する店舗がみられる。

**ホームセンター** 需要期を迎え、園芸資材は昨年を上回る売れ行きの店舗がみられた。

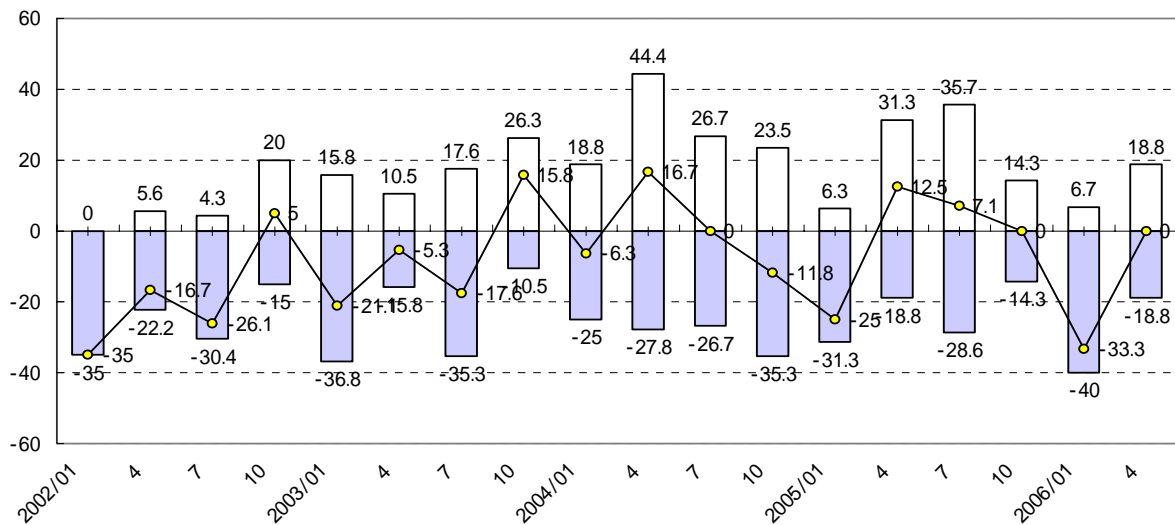
**大型家電店** 薄型TVは堅調な売れ行きをみせ、デジタル家電も順調な動きで、パソコンは安定した動きを続けているが、他の家電製品は幾分低調となっている。



	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回 答 企業数	好転	横這	悪化	D I	回 答 企業数	好転	横這	悪化	D I	回 答 企業数	好転	横這	悪化	D I
業 況	16	18.8	62.5	18.8	0.0	16	25.0	37.5	37.5	-12.5	16	18.8	62.5	18.8	0.0
客 単 価	16	18.8	37.5	43.8	-25.0	16	12.5	50.0	37.5	-25.0	16	12.5	50.0	37.5	-25.0
来店客数	16	37.5	25.0	37.5	0.0	16	37.5	18.8	43.8	-6.3	16	31.3	50.0	18.8	12.5

「3ヶ月前」と比べての業況判断D Iの推移

グラフ - 8



**観光・サービス業**

春の行楽シーズンを迎え、観光地は賑わいをみせた。3月・4月は短い周期で天候が変わり、平均気温が例年より低いなど天候の影響を受けたところもみられた。宿泊客は、施設により区々となっている。「3ヶ月前」と比べての業況判断D Iは 5.6ポイントで幾分低調であった。大型連休前半は天候にも恵まれ入込み客が多く賑わいをみせ、5月の連休の宿泊状況は順調なところが多い。諏訪湖開きをはじめ地域の開山祭が行われ、本格的観光シーズンに寄せる期待は大きい。

白樺湖、蓼科、霧ヶ峰方面の宿泊客数は、旅館により増加・減少が区々となっているが、総体では天候不順の影響を受けている。

上諏訪温泉の宿泊客数は、少人数のグループ客の増加により前年を上回るホテル・旅館がみられたが減少したところもあり区々となっている。

下諏訪温泉の宿泊客数も増加・減少が区々となっているが、総体では前年を下回った模様である。

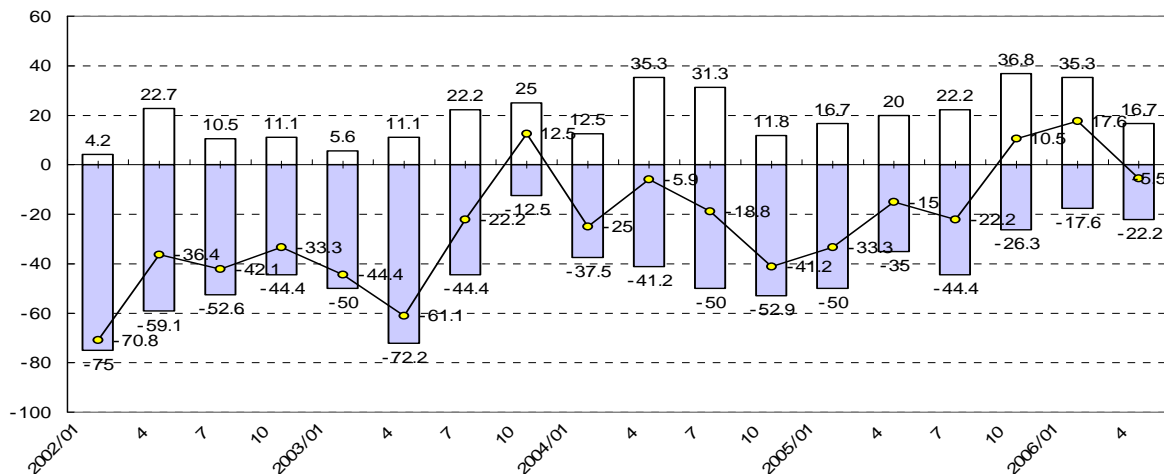
業況、売上、宿泊客

表 - 5

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答 企業数	好転	横這	悪化	D I	回答 企業数	好転	横這	悪化	D I	回答 企業数	好転	横這	悪化	D I
業況	18	16.7	61.1	22.2	-5.6	18	16.7	61.1	22.2	-5.6	18	50.0	44.4	5.6	44.4
客単価	18	11.1	66.7	22.2	-11.1	18	11.1	72.2	16.7	-5.6	18	33.3	61.1	5.6	27.8
宿泊客数	17	17.6	41.2	41.2	-23.5	18	16.7	38.9	44.4	-27.8	17	35.3	47.1	17.6	17.6

「前年同期」と比べての業況判断D Iの推移

グラフ - 9



3. 建設業

年度の切り替わる時期で、公共工事の発注は少なかった。建築は民間工事などで充足した企業がみられるが、土木は工事量が少なく、建設業全体としては依然厳しい状況が続いている。

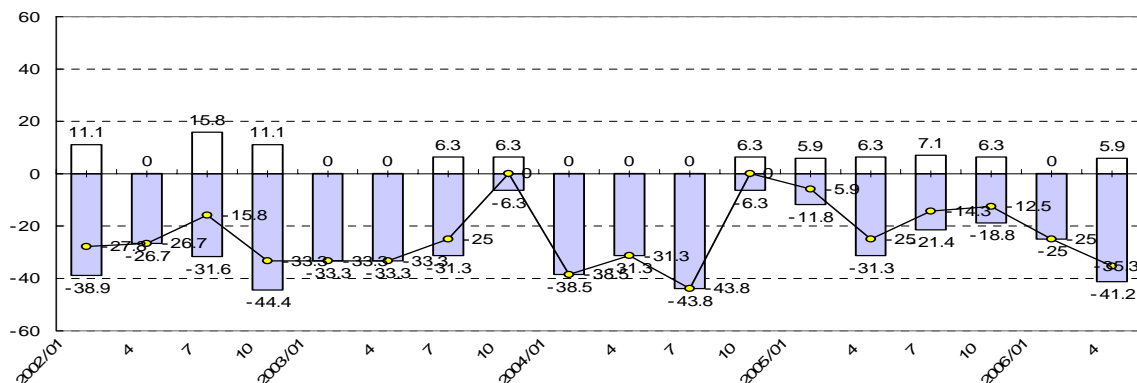
業況、受注状況、外注発注量

表 - 6

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答 企業数	好転	横這	悪化	D I	回答 企業数	好転	横這	悪化	D I	回答 企業数	好転	横這	悪化	D I
業況	17	5.9	52.9	41.2	-35.3	17	23.5	35.3	41.2	-17.6	17	17.6	52.9	29.4	-11.8
受注状況	17	29.4	17.6	52.9	-23.5	16	25.0	25.0	50.0	-25.0	17	17.6	41.2	41.2	-23.5
外注発注量	17	11.8	41.2	47.1	-35.3	16	12.5	31.3	56.3	-43.8	17	11.8	52.9	35.3	-23.5

「3ヶ月前」と比べての業況判断D Iの推移

グラフ - 10



#### 4. 収益性状況

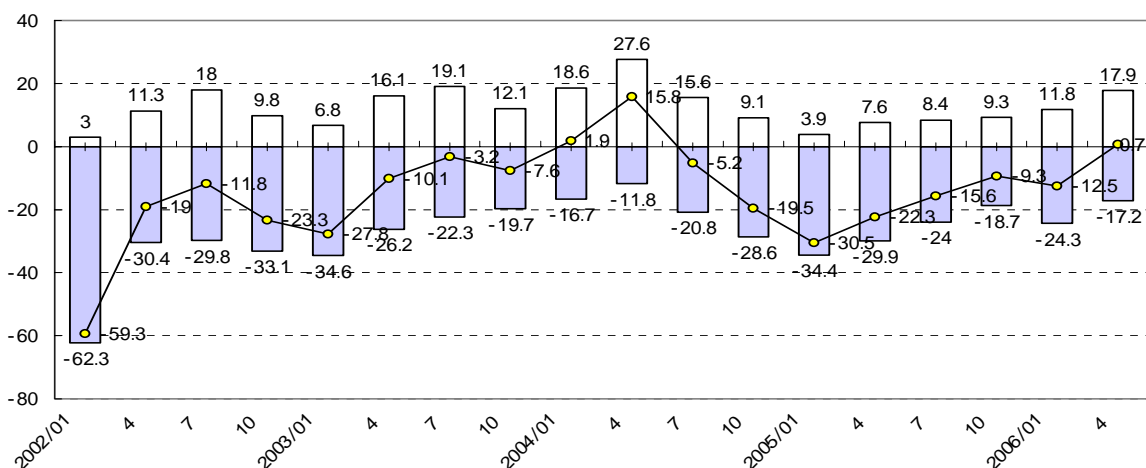
回答全社の「3ヶ月前」と比べての収益性D Iは、 7.0ポイントでマイナス幅が縮小した。製造業は原材料や原油高に加え、受注単価の引き下げなどの課題をかかえながら受注が回復しており、「3ヶ月前」と比べ収益性D Iは0.7ポイントと平成16年4月以降8期ぶりにプラスとなるなど収益性に改善が見られた。

非製造業の収益性は、第3次産業(商業、観光・サービス業)に収益が改善したところが見られるが、建設業は依然厳しく、非製造業全体としての収益性D Iは 30.0ポイントとなっている。

#### 「3ヶ月前」と比べての収益性D Iの推移

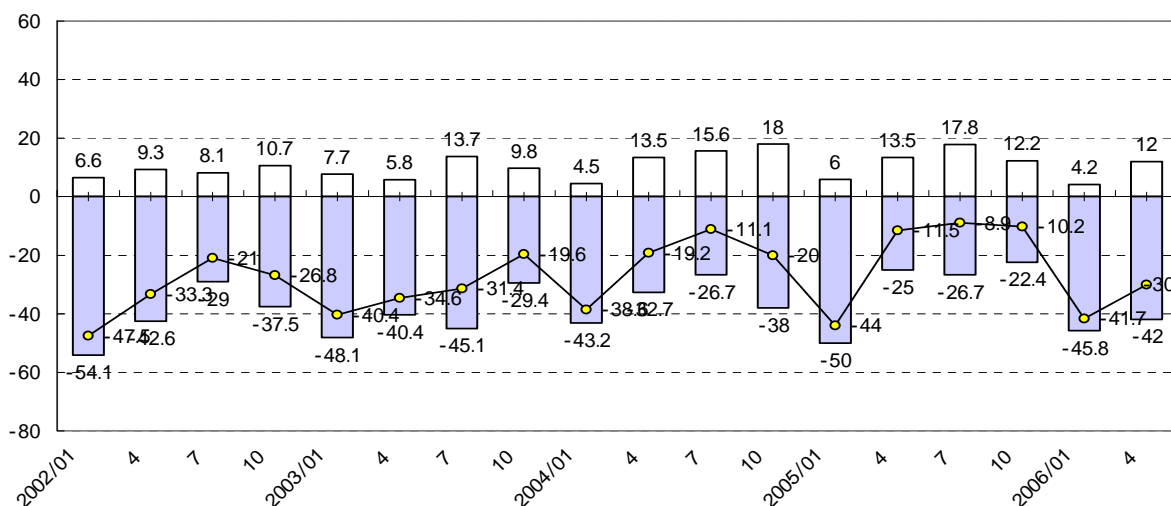
##### 製造業

グラフ - 1 1



##### 非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）

グラフ - 1 2



## 5. 原油高騰の収益性への影響

原油価格が1バーレル(約159)70ドル台に高騰しており、ガソリンや資材の値上がりなど個人消費や事業活動に影響がみられる。観光サービス業は、前年同期に比べ5%以上の影響を受けたところが55.6%で施設の半数を超えている。

原油高騰の収益影響は、徐々に現れておりこのまま原油の高騰が続けば収益への大きな影響が懸念される。

		前年同期比5%影響	前年同期比3%影響
製造業	143社中	25社 (17.5%)	17社 (11.9%)
観光・サービス業	18社中	10社 (55.6%)	2 (11.1%)

1. 調査期間 平成18年04月末
2. 調査内容 「平成18年04月末」の実績と、「3ヶ月前」と「前年同期」の業績比較及び「3ヶ月後の予想」
3. 調査方法 アンケート調査及びヒアリング調査
4. 対象地域 諏訪地域全域
5. 業 種 製造業、商業(大型店 売り場面積501㎡以上)、建設業、観光・サービス業
6. 回答企業数 201企業 回答率 67.0%

	製造業	商業	建設業	観光・サービス業	合計
依頼数	225	30	22	23	300
回答数	150	16	17	18	201

### 諏訪地方主要経済指標

主要指標		実数	前年同期比
有効求人倍率【3月】	諏訪公共職業安定所管内	1.42倍	0.15ポイント
	岡谷公共職業安定所管内	1.60倍	0.38ポイント
手形交換高【4月】 (諏訪手形交換所扱)	枚数	10,340枚	695枚
	金額	12,462百万円	806百万円
うち不渡り発生状況	枚数	2枚	2枚
	金額	4,500千円	4,500千円
車庫証明取扱件数【4月】 (諏訪・岡谷自家用自動車協会管内)		1,164件	1.7%
新設住宅着工件数(17.4~18.3月) (諏訪地方事務所管内)		2,021件	2.9%

## トピックス

### 最近の長野県経済の動向 (2006年5月10日) 日本銀行松本支店

2006年3月の主要経済統計および企業ヒアリングを中心に取りまとめ。

長野県経済は、緩やかで着実な回復が続いている。

足もとの最終需要の動向をみると、**設備投資**は、増加基調をたどっているほか、**輸出**も、引き続き回復している。また、**住宅投資**は、市部を中心に増加基調にある。**個人消費**は、乗用車販売および衣料品が弱めの動きとなっているが、食料品や家電製品を中心に基調としては底堅い動きがつついている。一方、**公共投資**は、国発注分の減少を主因に、前年を下回った。

以上のような最終需要のもとで、生産は、産業機械向けおよび自動車向けが高水準の生産を維持しているほか、IT関連財の生産も着実に回復している。また、雇用面をみると、企業活動の活発化を映じて新規求人数が引き続き増加し、新規求職者数も減少したことから、有効求人倍率は高いレベルを維持している。一方、所得面は、一人当たり名目賃金が所定外給与を中心に引き続き増加するなど、着実に改善している。

#### 個別業界の動向

##### (生産)

**半導体関連**では、半導体素子がデジタル家電向けの好調に産業機械向けの増産も加わって、生産水準を一段と引き上げているほか、シリコンウエハも、自動車関連・デジタル家電向けを中心に、高水準の生産を続けている。この間、リードフレームの生産は、横ばいで推移している。

**電子部品**では、コンデンサーが、デジタル家電向けを中心に生産水準を引き上げており、抵抗器は、デジタル家電、携帯電話向けを中心に高水準の生産を維持している。また、モーターの生産は、横ばいで推移している。

**情報機器**では、県内生産分のパソコン(ノートブック型)が、デザイン性を重視した新モデルの販売堅調を受けて、生産水準を引き上げており、また、プリンターは、複合機タイプの販売堅調を背景に高目の生産水準を維持している。一方、デジタルカメラは、販売の伸び悩みを受けて、生産は低調に推移している。

時計では、完成品が、海外生産シフトの影響からまた、ムーブメントも、海外向けが伸び悩みや価格競争の激化を受けて、基調としては低調な生産を続けている。

**自動車部品**は、国内向けが販売台数の減少を受けてやや鈍化しているものの、引き続き海外向けが増加基調にあることから、全体として高水準の生産が続いている。

**工作機械**は、国内外の自動車向けや情報関連機器向けを中心に高水準の生産を維持している。

計器は、国内の産業機械向けや半導体関連向けが堅調に推移している一方、国内外の自動車向けが減少していることから、生産は横ばい圏内で推移している。

バルブはウエイトの高い国内外の産業機械向けおよび国内の住宅向けが好調を維持していることから高水準の生産が続いている。

**味噌**の出荷は、テレビ等で健康面の効能が紹介されたことを受け、幾分増加した。

厳冬に伴う汁物需要の増加を映じて、増加している。

##### (個人消費)

**県内大型小売店(百貨店、スーパー)売上高**(当店調べ<店舗調整前>)をみると、身の回り品は、ブランド・テナント出店効果等により婦人向け商品や時計・宝飾品が好調に推移したことから、引き続き前年を上回った。もっとも、衣料品が3月中旬以降の気温低下等を背景とした春物衣料の出遅れから、食料品も一部店舗のリニューアルに伴う休業の影響等からそれぞれ前年割れとなったため、全体ではわずかながら前年を下回った。

**家電販売**は、デジタル家電や白物家電が好調を持続しているほか、パソコンの売れ行きも安定しており、全体では堅調な販売が続いている。

**自動車販売**をみると、ガソリン価格が高値で推移する中、小型車および普通車が引き続き減少したが、軽四輪が新型車投入効果等により増加したことから、全体では3ヶ月振りの前年を上回った。

##### (建設)

県内建設関連企業における**民間工事新規受注額**は、設備投資案件が引き続きみられるものの、県外業者との競合により当月は減少した。

**公共工事請負額**は、公団等発注分が北陸新幹線関連工事等により増加したものの、国発注分が減少したことから前年を下回った。

**住宅着工戸数**は、月々の振れを伴いながらも、金利底値感が高まる中で、住宅業者等が拡販施策を強化していることもあって、持家系、貸家系とも市部を中心に増加基調にある。